【報告書】

【内容】「森のつみ木広場」の視察

【実施日】11/2/5 【作成者】浅野友紀

1,森のつみき広場の活動内容

今回の活動は狛江市立狛江第六小学校の児童育成会が主催で、そのイベントを公益財団法人OISCAが進行役となって催されたものでした。OISCAはおもに太平洋、アジアでの農村開発や環境保全活動を行っており、「森のつみき広場」は日本における森林の状況を子供やその親たちに知ってもらうための啓蒙活動の一環として行われています。

2,間伐材を使った積み木

日本において森林保全がうまくいかない原因の一つとして森林を手入れしていく人が不足していることが挙げられます。これは、農村部での後継者不足や農業従業者の減少によるもので、森林を定期的に手入れをしていかないと森林は元の野生の環境に戻ってしまい環境変化に弱い植物や背の低い草木は絶滅の危機にひんすることになります。

森のつみき広場で使っている積木は、森の手入れで切り倒した木の間伐材からできており、それを広めること自体が森林保全にもつながり、また間伐材を利用した遊び道具と触れ合うことで木のぬくもりやにおいを感じたり、森林の現状をうまく伝える教育ツールとしても利用できます。

3,今回の活動の流れ

森の現状について

鑑賞と片付け

創作活動【２】

積み木を壊す

創作活動【１】

森についての紙芝居

今回の活動の流れは上のような5部構成になっていました。

**【それぞれの活動内容】**

1. 森についての紙芝居

創作活動の前の導入として子供たちに森の樹木や生息している生物について紙芝居と森についてのクイズを行った。

1. 創作活動

この初めの創作では子供たちが自由に積み木を作って、スタッフは子供たちの作品を見て回り、声をかけてコミュニケーションをとったり、出来の良い作品や特徴的な作品を取り上げて紹介したりすることで子供たちのモチベーションを上げていた。

1. 積み木を壊す

ある程度作品が完成して積み木がなくなってきたら、積み木づくりを中断して子供たちに作品の鑑賞をさせる。スタッフが先頭となって絨毯の周りを一周させ、同時に作品の紹介も行う。その後、スタッフが子供たちに積み木を壊すよう指示してその壊し方も指導する。

積み木の壊し方は、スタッフの合図で「積み木さん、ありがとう」と言って積み木を抱くように壊させていた。

1. 創作活動【2】

次も同様に積み木を自由に作らせる。ただし、今回はただ自由に作らせるのではなく、全体が街のようになるようにスタッフは誘導する。たとえば、別々に積み木を作っていた子供たちが共同で作品を作るようにしたり、積み木同士の間に道をかけてみたりする。また、二枚のじゅうたんの隙間を生かして街の真ん中に大きな川があるように見せて子どもたちに橋を作らせていた。

1. 作品鑑賞と片付け

最後に、子供たちに舞台の上から積み木全体を鑑賞してもらい、町の名前を付けさせる。その後、(3)と同じように積み木を壊させて、全員で片づけを行う。

(6)森林について

海外の過剰な伐採による森林の消失について写真を交えながら説明する。

4,活動の進行について

・紙芝居は手慣れた感じで、子どもたちの反応も良かった。

・個性的な作品や協力して作ったものを進行役が発表して子どもたちの注目を集める。

・保護者たちにも積極的に参加してもらう。

・大学生にも大きな作品を作らせる。

・二枚の絨毯の隙間を川に見立てて子どもたちに橋を作らせる。

・子どもたちが作りたいものを自由に作らせる。

・できるだけ子供たちの自主性にまかせ、その上で、共同で作品を作る方向に向ける。

5,子どもたちの反応

・低学年の子ほど積極的に作っていた。

・男の子は建物や船など一つの物を一人で作っていた。

・女の子は街や公園などを共同で作っていた。

・中には一人で黙々と作っている子もいた。

・終了後、積み木をほしがる子供もいた。

6,紙芝居の内容

7,改善点